

第18期 第6回小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 令和5年7月28日（金）午後3時～午後5時
- 開催場所 中央公民館 講座室2
- 出席者 椎名委員長、山田副委員長、馬場委員、河野委員、中島委員、八田委員、上村委員、塩島委員、山下委員（順不同）
- 傍聴人 0人
- 議題 第18期小平市緑化推進委員会の検討課題について
- 配付資料 （1）第18期 第6回小平市緑化推進委員会次第
（2）第18期 第6回資料 提言書（たたき台）

会議の要旨

事務局より、「鷹の台公園整備事業の基本的な方針」について委員へ報告した。

委員長

みどりに関することは決まっていないが、公園整備及び管理方法に関する方針ということで認識した。緑化推進委員会としては、今後みどりについて議論したいと考える。

委員

公園整備、運営等が市から民間へ移っていくことはいいことだと思う。一方で市内の公園の遊具には利用制限がかかっているものも多く見られる。安全性と利益で相反する部分をどのように埋めていくかが課題だと考える。

事務局

指定管理者制度は業務委託とは違い、市と対等な関係になる。公園内に新たに遊具等が設置された場合、責任は指定管理者側に発生するため、制度によって担保されている部分があると考える。

委員長

事故が起きた際の指定管理者と市側の責任について事例等はあるか。

事務局

小平市内では公園に指定管理者制度を導入した事例がない。一般的には、協定を結んだ段階でリスクの共有について取り交わしがされる。

委員長

民間は会社が倒産することもあるが、その際には責任がなくなるため、最終的な責任はどうなるのか。事例を調査してほしい。

委員

提言書の作成にあたり、街路樹管理マニュアルの作成について詳細な意見と提案を述べる。道路緑化においては、道路緑化技術基準等に基づいて、身近な緑である街路樹等の充実を図る。新たに道路を建設する場合は、生物生態系や都市景観に配慮して、十分な緑化空間を形成する必要がある。既存の道路の場合は、歩道が狭い道路の交差点周辺において、街路樹が枯損した場合は、視距の確保等、安全面や維持管理に配慮して、植樹する必要があるか再検討する必要がある。

提案としては、生垣造成補助制度と同様に、道路に面して緑化を行う場合は、小平市で新たな補助制度を検討し、導入することを提案したい。緑のまちづくり、緑化空間の充実の観点より、積極的に民間企業や市民の協力を得て、セットバック等を行ってもらい、周囲の緑視率又は緑被率の充実を図る。

市内の道路緑化の手本として、府中街道沿いの「ブリヂストン・パークウェイ」が挙げられる。

また、花いっぱいプロジェクトにおいては、小平駅前の花壇からルネこだいらまでの商店の区間、一橋学園駅前の商店街区間、その一部において、商店主やボランティアによる水やりの協力を得て、ハンギングバスケットによる道路緑化の導入を提案したい。ハンギングバスケットを設置することにより華やかな空間を作ることができ、植木鉢を上を設置する方法であれば、自己散水システムを使用せずに水やりを行うことができる。過去の提言書にもハンギングバスケットに関する内容が記載されていたので、実現したいと考える。

次に津田公民館にて実施された鷹の台公園整備基本計画策定のための一般市民向けワークショップ「鷹の台公園おえかきかいぎ」に参加して思ったこと、提案を述べる。

冒頭に小平市から「公園を核としたまちづくり」と話があった。市内には321か所の公園があり、今後は少子高齢化社会、人口減少社会を迎える中で、小平市が都市間競争に打ち勝ち、住みたい街と思われるためには、個々の公園を単独で考える以外にも、広域的に「公園を核としたまちづくり」を行う必要があると考える。みどりの充実した「公園の街こだいら」と呼ばれるように、まちづくりや公園整備・管理を行っていくことを提案したい。

鷹の台公園整備事業においては、鷹の台公園の整備の他に、周辺の中央公園、上水公園、きつねっばら公園、ふれあい下水道館等の公園及び施設に加えて、鎌倉公園整備についても検討しているため、広域的に市内の各公園の目的の整理（地域コミュニティの場、防災公園

整備、インクルーシブ遊具の導入、プレーパーク等を含む子どもたちの遊び場、都市農業公園等)、すみ分けを検討すべきである。着替えは中央公園の市民総合体育館で行い、動植物等の勉強会はふれあい下水道館で行うなど、中央エリアの再整備地区も含めて、各施設の連携、有効活用を検討する必要がある。連携においては、移手段の確保、交通網の充実が重要だと考える。例えば、新小平駅から上水公園、鷹の台公園、鷹の台駅、中央公園及び鎌倉公園等を結ぶコミュニティバスやコミュニティタクシー等の路線の確保し、本数の充実を図ることを提案したい。デマンド型交通についても検討したい。

ワークショップにおいて、「自分たちで作りに上げていく公園」という意見もあった。地域の人たちが公園の開園後も、自分たちで花壇を植え付ける、自分たちで築山を作る等、公園での体験を通して公園を作り上げていくという発想であり、今後このような公園を新たに作ることも提案したい。

委員長

生垣造成補助制度と同様に道路に面して緑化を行う場合とあるが、民間の土地が対象か。

委員

そうである。歩道が狭い、道路に面した場所を想定している。

委員長

鷹の台駅周辺は以前よりも閑散としているように感じる。「公園を核としたまちづくり」とあるが、鷹の台公園の整備によって、玉川上水と共に新しいたかの台のイメージができると思う。

各施設の連携、有効活用とあるが、面白いと思う。コミュニティタクシー等は採算がとれるのか。例えば、指定管理者制度について、コミュニティタクシー等の運用も提案することはできるのか。

事務局

指定管理料に上乗せすれば提案は可能ではあるが、小平市におけるコミュニティタクシーの運用の考え方と整合を図る必要があり難しい。

委員長

コミュニティタクシーについては高齢者の移手段の補助等が当初の目的であると認知している。公園や施設との連携や活用だと目的と異なるのではないか。指定管理者制度と関連づけて提案できないか。

委員

デマンド型でできないだろうか。電話で予約したり、呼び出して乗車したりできる形式を考えている。

委員長

指定管理者制度における民間事業者の選定において、優劣の基準をつけるために採用するのはどうか。民間事業者に提案してもらい、検討するのも方法の一つだと考える。

委員

コミュニティバス等が高額なことを考えると、各公園に貸し出し用の自転車を設置するのはどうか。小平市はほとんどが平らな土地のため、自転車も苦にならないのではないか。また、環境へのアピールにも繋がると考える。

事務局

こだいら観光まちづくり協会では、公園や地域センター等にも貸し出し用の自転車の設置を行っている。

委員長

緑化推進委員会も残り3回となるため、これまでの意見をもとに提言書のたたき台を作成した。すべての意見を盛り込むことはできていないが、どうしても盛り込みたい意見については内容をまとめて提案していただきたい。

タイトルは空欄にしている。たたき台は、「はじめに」「生物多様性の高い雑木林の実現」「用水・上水を現代に活かす」「公園の有効活用等の促進」「屋敷林等小平由来の緑で街路樹の緑を作る小平」「鈴木遺跡を遺跡公園として現代に活かす」「中央エリア緑化は市民のやすらぎと行政コンセプトの追求」の構成にしている。

委員長より、「第18期 第6回資料 提言書(たたき台)」の内容の読み上げ説明があった。

委員長

全体で何か意見はあるか。

委員

ザリガニは記載しない方が良いのではないか。外来種はあまり適切ではないと考える。

委員長

釣りなどで触れ合える水生生物としては、ザリガニは広く認知されている。市内の用水路で生物を採取することは禁止されているのか。

事務局

原則禁止としている。

委員長

観察ということであれば記載しなくても良いか。削除する方向で検討する。

委員

インクルーシブ遊具の導入について、背もたれブランコや円盤ブランコ、複合遊具等の具体的な記載はしないのか。

委員長

遊具の種類については、子どもに人気のある遊具の調査や、市民のニーズを把握した上で決定していくため、具体的に記載することは控えている。例として記載するのであれば検討する。

委員

天然芝グラウンドの整備とあるが、人工芝は含めないのか。

委員長

人工芝の整備は緑化にはならないため緑化推進委員会で議論、提案する内容ではない。安全性はあるため、ブランコの下に敷くなどの例はあるが、全体の整備となると根本から異なると考える。

委員

今年、小川町一丁目の小川用水にてホタルを確認した。ホタルの幼虫について、沼さらいを行うことで、生育状況に影響が出るのではないかと考えていたが、小平ほたる会に聞いたところ、沼さらいを行うことで影響が出ることはほとんどないとのことだった。

また、小川用水にて、コンクリートや金属で護岸されているのを見かけるが、護岸があることでホタルの幼虫が這い上がれなくなり、生育に影響が出ると考えられるが、指導や規制はしているのか。

事務局

用水路の護岸は市で設置している。水路が崩れ生活に影響が出る箇所については要望を受けて護岸を設置している。

ホタルについては、沼さらい後にも見られたという話を聞いているため、沼さらいの影響は受けていないと考えている。

委員長

ホタルの生育と沼さらいとの関係は調査しておく必要がある。ホタルとの関連から、どこで沼さらいができるか調査してほしいと提言に盛り込むことも検討できる。

委員

水量も以前と比較して減少している。沼も減少しており、空き缶等のゴミが増えている。

委員

ホタルの発生を確認するためには、環境調査が必要ではないか。

委員長

「ホタルの里小平」とあるが、都市間競争に打ち勝つためには、このようなことも進めていく必要があると考える。市内には川がないが、水路の環境が良いためホタルがいるとなると、土地の評価が上がると考える。今後は人口の減少が見込まれるが、住みたいまちと思われるために、ホタルを守っていくことは重要なことだと考える。

委員

花に水やりをすることについて、公園であれば水を確保できるが、駅前の花壇等については水を確保することができない。近隣の方にも頼みにくいところもあり、いい方法がないか考えている。

委員

ハンギングバスケットについては、朝晩に柱にパイプを設置してノズルから水の自動供給を行っている公園の例があるので、活用できないか。水も家庭の水道から持ってきて利用するのではお金がかかる。

委員長

ルネこだいらの壁面などではできないか。ヨーロッパなどにはよく見かけるが、どのような仕掛けになっているのか。

委員

清瀬駅の北口に自動灌水装置を設置したハンギングバスケットがある。手入れ方法は不明だが、空間としては素晴らしいと思う。

事務局

小平市では設置例がないため、事例については調査する必要がある。行政が作って設置すればいいわけではなく、地域の方と協力して作ることも考えられる。良い事例があれば教えていただきたい。

委員

植木鉢を設置して商店街の方に水をあげてもらおう方法で実現できないか。

事務局

ハンギングバスケットの設置場所について考える必要がある。各家庭、店舗の軒先に設置することを目的にPRしていくのか、行政が作成して設置していくのかによって、進め方は異なると考える。

委員長

やりがいがあると良いのではないか。

委員

人の集まる場所への設置や、見せて価値のあるものであれば維持できるが、少し作っただけでは炎天下で枯れて終わってしまうので、目的や組織を構築して取り組まなければいけない。小平市でやっている寄せ植え等のコンテストは、人を集めて周知してもらおう機会になると考える。

委員

光が丘公園には自動給水装置が設置されている。朝晩に自動的に給水される仕組みになっている。経費については作れば安く済ませられるが、設置にはかかってしまうか。

委員長

商店街であれば、街路灯の補助の対象になるのではないか。兼ね合いを考えると、商店街が主体となって動く方が適切だと考える。どこかで宣伝的に実施するのも良いのではないか。全てを行政が行うのは難しいと考える。継続的に商店街を活性化することは何年も検討されているが、難しい課題なのだと思う。民間でも連携してくれるところがあるのではないか。

委員

学校と連携はできないか。生け花や、ガーデニング部と商店街が連携して取り組むために行政に仲介してもらい、進められないか。商店街にとっては若い世代の集客に繋がり、学生はまちづくりに大きく貢献できる機会になるのではないか。デザインを武蔵野美術大学にお願いすることで、より大きくできると考える。

委員長

動機付けできればいいと思う。ハンギングバスケットの設置で長く続いた事例はあまりないのではないか

委員

提言の中にアカマツの保存について記載があるが、公園ではどのように対応しているか。

事務局

特別な位置付けはされていない。公園から越境している場合については剪定を行っている。

委員

基本的な考え方に沿って対応されていればいいが、切りすぎるのは問題ではないか。東京都ではアカマツを保存していこうと謳っているが、小平市では切ってしまうと認知されている人もいる。昔からある景観のため、保存していく方向へ検討してほしいと考える。

委員長

雑木林の多い小平市ではアカマツが残っていく可能性が高いと考える。アカマツは雑木林を構成するうえで重要な樹木であることも理解している。

他になければここまでとする。提言書における「はじめに」については次回までに準備しておく。タイトルについては次回協議したいと思う。

以上